

# 一般英語と司法英語における correct、right、true を中心とした類義語の研究

## A Study of Synonymous Words *correct, right, true* and the Collocated Words Used in General English and Legal English

鳥飼 慎一郎  
TORIKAI Shinichiro



**Key words:** 類義語、一般英語、司法英語、correct、right、true synonyms, general English, legal English, *correct, right, true*

### Abstract

This corpus-based research investigates the way three synonymous adjectives *correct, right* and *true* are used in the *British National Corpus (BNC)*, in the corpus of United States court judgments and in the corpus of United Kingdom court judgements. The research investigates how these three adjectives collocate in real contexts, focusing particularly on the nouns which these three adjectives pre-modify and the adverbs which modify these adjectives from the preceding position. This article first explores the general nature of English adjectives and the epistemology of these three adjectives. Then, the semantic relationships between the three adjectives and modified nouns, and modifying adverbs and the modified adjectives are examined quantitatively and qualitatively. The findings are: *correct* is used when something/someone is precisely and accurately in accordance with the objective standard of a particular category, *right* is used when something/someone properly meets socially accepted ideas and conventions, and *true* is used when something/someone is in agreement with idealized images or reality of the same kind. It is also found that particular adverbs predominantly modify one of these three adjectives and not others to enhance its contextual meaning.

## 1. はじめに

類義語を集めて辞書にしたものを一般にはシソーラス (thesaurus) と呼んでいる。代表的なシソーラスである *Oxford Thesaurus of English* (2009) (以後、OTE と略す) の Preface の冒頭には以下のような記述がある。

The word *thesaurus* comes from the Greek word *thesaurus*, meaning 'storehouse' or 'treasure'. This is an apt description, because a thesaurus is a kind of treasure trove of the language, allowing you to explore its richness and variety. (p. vii)

確かに同じような意味を表す類義語が多数あることは、その言語の豊かさ (richness) と多様性 (variety) を高めることになるであろうが、外国語としてその言語を学ぶ者にとっては、厄介な存在である。似たような意味の語が複数存在すると、意味的にどう違うのか、文法的な使い方に違いはあるのか、使用域は同じと考えてよいのか、など様々な疑問が起これ、学習者を悩ませるのである。このことは専門性の高い司法英語においても同様である。一例をあげれば、司法英語で「訴訟当事者」を意味する語は、plaintiff、claimant、defendant、appellant、petitioner、respondent など複数あり、「法律」を意味する語も law、act、statute、legislation、bill などがある。裁判の場で原告や被告が「主張する」ことは maintain、argue、insist、assert、state、allege、claim などの動詞で表され、裁判官が「判断する」ことは decide、hold、judge、rule、adjudicate、find、determine などの動詞が使われるのである。これらの語の意味と使い方の違いを一つ一つ覚えてゆくのは大変な作業であり、英語を母語としない日本人学習者にとっては膨大な時間と労力を費やさねばならないことになる。

この司法に関わる専門英語を少しでも効率よく学習し、より多くの時間と労力と予算を専門分野の学習に振り向けてほしいとの願いから、鳥飼慎一郎 (立教大学)、溜箭将之 (東京大学)、高橋脩一 (専修大学)、秋元奈穂子 (立教大学)、中田裕子 (東京大学)、山本英一 (関西大学) の6名は、プロジェクトチームを組み、JSPS 科研費 (JP21H00549) の助成を受け、『コーパス言語学に基づく日本人のための活用発信型司法英語辞書』を現在編集している。

本論は、鳥飼が担当した3つの形容詞 correct、right、true の一般英語と司法英語における違いに関する研究成果を後日大幅に加筆し、当該科研プロジェクトの研究成果の一環として鳥飼の責任で発表するものである。

## 2. 本研究について

### 2.1 本研究のデータ

本研究では既に構築してある5本の司法英語コーパス (合計語数約2,900万語) のうち、US

コーパス（約 600 万語、以後 US と略す）と UK コーパス（約 600 万語、以後 UK と略す）と、現在のイギリス英語を包括的に網羅しているとされる 1 億語からなる *the British National Corpus*（以後、BNC と略す）を用いる。US と UK の中身は以下の通りである。

#### US

- U. S. Supreme Court (約 100 万語), U. S. Court of Appeals (約 100 万語)
- U. S. District Court (約 100 万語), U. S. state courts (North East region) (約 150 万語)
- U. S. state courts (South region) (約 150 万語)

#### UK

- U. K. Supreme Court (約 300 万語), U. K. Court of Appeal (約 150 万語)
- U. K. High Court (約 150 万語)

## 2.2 本研究の方法論と目的

本論はコーパスソフトウェアの Sketch Engine を利用し、コーパス言語学の手法を用いて、意味が類似した 3 つの形容詞 correct、right、true が一般英語と司法英語でどのように使用されているのかを量的あるいは質的な観点から分析し、その違いを明らかにせんとするものである。

## 2.3 コロケーション

ある語が別の語と頻繁に共起することを言語学ではコロケーション (collocation) と呼んでいる。このコロケーションを言語学の世界で初めて専門的に取り上げたのは、ロンドン学派の John Rupert Firth であると言われている (堀、他 2009)。コロケーションの専門辞書である *Oxford Collocations Dictionary for students of English* (2009) (以後、OCDSE と略す) は、コロケーションを以下のように簡潔に定義している。

Collocation is the way words combine in a language to produce natural-sounding speech and writing. (p. v)

一方、*the Oxford English Dictionary* (1989) (以後、OED と略す) は、コロケーションを以下のように定義し、Firth のコロケーションの定義についても論評を加えている。

Linguistics. The habitual juxtaposition or association, in the sentences of a language, of a particular word with other particular words; a group of words so associated.

Introduced by J. R. Firth as a technical term in modern Linguistics, but not fully separable from examples in sense 1a.

この *OED* の定義と軌を一にするものが *Oxford Advanced Learner's Dictionary* (2020) (以後、*OALD* と略す) の定義であろう。

- 1 [C] a combination of words in a language that happens very often and more frequently than would happen by chance:
- 2 [U] the fact of two or more words often being used together, in a way that happens more frequently than would happen by chance:

1 番目の定義は、*OED* における後半の定義に、2 番目の定義は、*OED* の前半の定義に対応するものである。両方の定義の後半にある *more frequently than would happen by chance* は、統計学における有意差を強く意識させる表現である。そのコロケーションの重要性について、*OCDSE* は以下のように記述している。

Collocation runs through the whole of the English language. No piece of natural spoken or written English is totally free of collocation. ...The precise meaning in any context is determined by that context: by the words that surround and combine with the core word – collocation. (p. v)

語の本当の意味はその語の前後で使用される他の語との関係、すなわちコロケーションによって決まると言うのである。この考え方は、本論の類義語研究を貫く考え方と合致するものである。

本論では、まず形容詞とは何かについて概観し、取り上げる3つの形容詞 *correct*、*right*、*true* の語源や今日に至るまでの語彙論的な変遷を見てゆく。最後にこれらの形容詞がどのような名詞を修飾するのかしないのか、あるいはどのような副詞によって修飾されるのかを、*BNC*、*US*、*UK* を使って分析し、この3つの形容詞の意味の違いをコロケーションを中心に明らかにしてゆく。

### 3. 形容詞 *correct*、*right*、*true* の概要

#### 3.1 形容詞とは何か

形容詞とはそもそもどういう品詞なのであろうか。形容詞を分類する時によく用いられる基準に、以下の5つがある (Biber, *et al.* 1999: 507-8)。

- (1) morphological inflection, (2) attributive role, (3) predicative role,
- (4) descriptive meaning, (5) gradable

(1)は *-er* や *-est* 形があるかないか (例: *big-bigger-biggest*)、(2)は限定用法の有無 (例: ○ *a big car* × *an afraid man*)、(3)は叙述用法として使えるか否か (例: ○ *His car is big.* × *His car*

is mere.)、(4)は記述すべき実態が有るか否か(例：○ a yellow book × a different book)、(5)は段階的であるかどうかである(例：○ more beautiful × more absolute)である。最後の gradable な形容詞とは、その形容詞によって表現される様態や程度にも様々な段階があり、very や deeply などの程度を表す副詞で修飾が可能であり(例：very strange や deeply unhappy)、比較級や最上級を用いて他との比較が可能であるとされる形容詞のことである。

Quirk, *et al.* (1985: 434-6) は、形容詞を分類する基準として、(1)Stative/dynamic、(2) Gradable/nongradable、(3)Inherent/noninherent の3つを挙げている。(1)は、元々形容詞はどれも静的な意味であるが、形容詞によっては動的な意味にもなりうるというものである。一例を挙げれば、形容詞 tall は静的な使い方のみが可能で、He is tall. と言えるが、進行形にして \* He's being tall. あるいは命令形にして \* Be tall. とは言えない。一方、形容詞 careful は、He's being careful. あるいは Be careful. とも言え、動的な意味での使用が可能である。(3)は本来の意味か非本来の意味での使用かの違いである。A firm handshake — a firm friend, a perfect alibi — a perfect stranger, a certain result — a certain winner, a true report — a true scholar の対比において、左側の形容詞の用法は、その形容詞本来の意味で使用されているが、同じ形容詞でも右側の用法は修飾される名詞の根源的な意味を引き出す用法である。後者の用法を Quirk, *et al.* (1985: 435) は以下のように説明している。

Modification of a noun by means of a noninherent adjective can be seen as an extension of the basic sense of the noun. Thus *a firm friend* is 'a friend whose friendship is firm', and *a perfect stranger* is a 'stranger who is perfectly strange'.

Huddleston & Pullum (2002: 531-2) は形容詞を、段階的 (gradable) と非段階的 (non-gradable)、あるいは段階的 (gradable) と絶対的 (absolute) な意味を持つ形容詞に分類している。彼らによれば、段階的な意味の形容詞とは、How good is it? She seems very young. Things are getting rather serious. などの程度の副詞 (degree adverbs) によって修飾可能な形容詞のことである。それが不可能な public、Christian、British、open などの形容詞は non-gradable adjectives に分類されるが、場合によってはこれらの形容詞でも gradable な意味での使用も可能だとしている。(例：He sounds very British. You haven't been very open with us.) 非段階的形容詞の中には、伝統的に絶対的形容詞 (absolute adjectives) と称されるものが含まれる。絶対的形容詞であっても very unique、more complete、more perfect、most essential などとして使われている例を挙げ、場合によっては段階的な意味での使用も可能であることを示している。

本論が研究対象としている correct、right、true はどれも非段階的な形容詞であり、伝統的なくくりで言えば絶対的な意味を持った形容詞である。絶対的な意味とは、correct — incorrect、right — wrong、true — false の対比で示されるように、「正」か「誤」あるいは「正」か「偽」かの2分法で示される判断であり、正しいか間違っているかという2極化された判断基準であり、

その中間的な状態はないと考える世界である。そのため、どの程度合っているのか間違っているのかを聞くことも、正誤の程度を表現することも理屈の上では不可能とされる形容詞である。この非段階的あるいは絶対的な意味で使用される一連の形容詞の特徴は、本論が取り上げる3つの形容詞の用法を考えるうえで重要な意味を持つように思われる。

### 3.2 形容詞 correct、right、true の使用頻度

Correct、right、true の BNC と US と UK における使用頻度は以下の通りである。

表1 Correct、right、true の使用頻度概要

	BNC		US		UK	
	総使用頻度	100万語あたりの使用頻度	総使用頻度	100万語あたりの使用頻度	総使用頻度	100万語あたりの使用頻度
correct	5,597	49.82	711	87.72	1,479	201.66
right	29,193	259.85	391	48.24	1,283	174.93
true	16,960	150.96	1,096	135.22	1,392	189.79

これら3つの形容詞が最も高い頻度で使用されているコーパスはすべて異なる。Correct が最も高い頻度で使用されているのは UK で、100万語当たり約200回である。その次が US で、100万語当たり90回弱で、UK のおよそ半分である。最も少ないのが BNC で、100万語当たり約50回であり、UK との差はおよそ4倍である。Right の使用頻度が最も高いのは BNC で、100万語当たり約260回である。次が UK で、100万語当たり170回強である。一番低いのが US で、100万語当たり約50回で、UK の3分の1から4分の1程度の使用頻度である。True は大体各コーパスとも100万語当たり150回前後でほぼ同じ使用頻度である。

コーパス別にみると、これら3つの形容詞がほぼ同じ使用頻度で使われているのが UK であり、使用頻度最上位の correct は最下位の right の1.15倍でしかない。次が US で、使用頻度最上位の true は最下位の right の2.8倍である。最も差異が大きいのは BNC で、使用頻度最上位の right は最下位の correct の5.3倍の開きがある。

### 3.3 Correct、right、true の語源と語義

語源とは、『広辞苑』（2015）によれば「個々の単語の成立・起源。単語の原義。」のことであるが、語源を探ることでその語は元々どういう発想で生まれたのかが理解でき、人々が森羅万象、この世のありとあらゆる事象をどう認識し、それを言語化してきたのかを窺い知るためのよい手掛かりとなる。

#### 3.3.1 Correct の語源と語義

形容詞 correct は、OED によれば、ラテン語に由来した語で、「真つ直ぐにする、正しくする」

という意味の動詞 *corrĭgere* の過去分詞形から派生した語であることが分かる。

< Latin *correctus* made straight, set right, etc., past participle of *corrĭgere*

OED で動詞の *correct* を引くと、以下のような記述があり、*correct* は *cor* + *rect* から成り、*cor* は「共に、一緒に」という意味であり、*rect* は「まっすぐに導く、指示する、支配する」という意味であることが分かる。

< Latin *correct-* participial stem of *corrĭgere* to make straight, set right, reform, amend,

< *cor-* = *com-* together + *regĕre* to lead straight, direct, rule.

*Correct* の語義は、OED によると以下の3つである。

2. In accordance with an acknowledged or conventional standard, esp. of literary or artistic style, or of manners or behaviour; proper.
3. In accordance with fact, truth, or reason; free from error; exact, true, accurate; right. Said also of persons, in reference to their statements, scholarship, acquirements, etc.
4. Of persons: Adhering exactly to an acknowledged standard:
  - a. of literary or artistic style.
  - b. of manners or behaviour.

2と3の語義は、in accordance with で始まっていることからわかるように、「正式に認められているあるいは伝統的な基準と合致する」「事実、真理、道理に合致する」ことであり、そこから「正しい」という意味が発生していることが分かる。4の Adhering exactly to も「正式に認められている基準を厳密に順守する」という意味であり、そこから「正しい」という意味が生まれている。いずれの語義においても、判断基準が既に存在し、それと照らし合わせた上で同じであれば「正しい」と判断する形容詞である。

類義語辞典の OTE は適切な例文と類義語を語義ごとに提示しており、*correct* の意味を知るのに参考になる。その OTE は *correct* の意味を以下の2つに大別して、それぞれに該当する使用例と最も近い意味の類義語を以下のように示している。

- 1 *the answer he gave was perfectly correct*: **right**
- 2 *she wondered whether it was the correct thing to say*: **proper**

1は「正・誤」の判断のうちの「正」を意味するもので、上記の OED の語義の3.に相当する語義



である。2は「適切さ」を意味するもので、上記のOEDの2.の語義に相当する。

### 3.3.2 Rightの語源と語義

形容詞rightと語源を同じくする語(cognate)は、Old Frisian、Old Saxon、Old High Germanを始め、Gothic、classical Latin、ancient Greek、果てはOld Persianに至るまで、数多くのインド・ヨーロッパ諸語の中で長年使用されてきた語であり、OEDをして、Broadly the same range of meanings is found in all of the early Germanic languagesと言わしめるゲルマン語本来の語である。OEDはrightの語源に関して以下のような説明をしている。

Old English *riht* (adjective and noun), *rihtan* (verb), *rihte* (adverb), of Germanic origin; related to Latin *rectus* 'ruled', from an Indo-European root denoting movement in a straight line.

Rightは、インド・ヨーロッパ語族に由来する語であり、元々は「直線的な動き」を意味する語であったことが分かる。

Rightはインド・ヨーロッパ語族由来の一般的な語であるがゆえに、その語義も多岐にわたっている。OEDはrightの語義をIからIVの4つの大分類に分け、その下で16の中分類に細分化して定義している。その中でも本論に直接関係のある語義のみを以下に挙げておく。

II. Senses relating to truth, correctness, or propriety.

5. a. Done in accordance with justice or goodness; equitable, just; morally good, justified, or acceptable. In later use chiefly predicative.
6. a. That agrees with some standard or principle of correctness; consonant with the facts; correct, true.  
b. Of religious belief or a religious principle: orthodox, true; that ought to be accepted or followed.  
d. That leads towards the place one wishes to reach, that leads in the correct direction.
7. a. (a) Fitting, appropriate, proper; according to what is most suitable for a particular occasion or purpose; (also) exactly meeting the requirements of a particular situation.
8. a. Of the mind or mental faculties: normal, natural, sound; such that one can think and act competently. Chiefly in *to be in one's right mind* (also *senses, wits, etc.*)

OEDはrightの意味を以下の8つに分類し、類義語を示している。



- 1 *I do not believe that it would be right to reverse this decision: just*
- 2 *he was first to give the right answer | you haven't gone about it the right way: correct*
- 3 *the right person for the job: suitable*
- 4 *you've come at just the right moment: opportune*
- 5 *unfortunately he is not quite right in the head: sane*
- 6 *John's face does not look right: healthy*
- 7 *my right hand: right-hand*
- 8 *the library is a right mess: absolute*

『英語多義ネットワーク辞典』(瀬戸、他 2007) は、right の意味の通時的な展開を以下のように記述している。

「一直線的に動かす」が原義。ここから、「まっすぐに導く」→「正しい、正当な」→「正常な、健全な」。また、原義としては「知恵者の心は右にあり(聖書)」から「右手」→「正しい」という考え方が生まれたという説もある。

その上で、現代の right の中心的な語義として、以下の意味を設定している。

〈人(の行為・考えなど)が〉規範に照らして正しい：法律・道徳的に正しい、正義の

現代英語では、「正しい」という意味と同様に「右の」という意味の使用頻度も高く、BNC の「right + 名詞」のコロケーション上位には、right hand (1位：744回)を始め、right arm、right wing、right hemisphere、right leg、right foot、right eye、right ear など「右の」という意味の right が多数並んでいるが、本論では correct、true の類義語に関する研究であるため、「右の」という意味は除外して論を進めてゆくことにする。

### 3.3.3 True の語源と語義

True の語源は大変示唆的で興味深い。『研究社新英和大辞典』(2002)によれば、《原義》as firm as a tree (Gk *dóru* beam/skt *dāruna* hard, *dāru* wood) と記されており、古くは古代ギリシャ語やサンスクリット語まで遡る語であることが分かる。OED では、Origin: A word inherited from Germanic. とあり、ゲルマン系言語の多くに true と同じ語源の語が存在するが、広くは古ペルシャ語、古アイルランド語にまでも同じ語源の語が見い出されると記載されている。OED はその語源については不明としつつも、以下のように記述している。

further etymology uncertain; perhaps < an Indo-European base related to that of TREE *n*.

(with the suggested semantic connection perhaps compare classical Latin *robustus* made of oak; strong, firm

True という語は語源的には、tree と関係性の高い語であり、「オーク材で作られた；頑丈な、強固な」という意味の古ラテン語の *roobustus*（現代英語の *robust* で「頑強な」という意味）と意味的な関係が比定される語であるという。『新英和大辞典』では、oak について、「材は堅く木目が美しいので家具の材料となり、また造船の良材」との解説が付け加えられており、ヨーロッパ人にとって true とは、家具や造船の良材となるあのオークの木のように堅く、耐久性に優れ、信頼できるものを思い起こさせるものであることが理解できる。

True も right 同様に多義語である。OED では true の語義を大きく 3 つに分け、それらの語義をさらに 9 つに分けている。これら 9 つの語義で本論と関係の深い意味は以下の 5 つである。

1. a. Of a person: showing unwavering support and respect for a leader, country, cause, etc.; faithful to one's word; loyal, constant, steadfast.
4. a. Of a statement, idea, belief, etc.: in accordance with fact; agreeing with reality;
5. In accordance with or sanctioned by law; valid; rightful; legitimate. Now somewhat literary.
6. a. Of an instrument, mechanical part, etc.: accurately formed, positioned, or aligned; correctly calibrated. Also of a line or something linear: straight, accurate; without deviation.
7. a. Real, genuine, authentic; not false or spurious; that rightly or properly bears the name. Also: in accordance with or approaching an ideal example of its kind.

True は、『英語語源辞典』（1997）等によれば、古英語では「忠実な、誠実な」という意味であり、上記の OED の語義分類の 1. a. がそれに相当する。その後、「事実と合致する」、「法的に正当な」、「正確な」、「名に値するような」という現代で使われている意味が派生したものと考えられる。

OED は以下の 6 つに true の意味を分けて、類義語と共に表示している。

- 1 *it may seem hard to believe but I can assure you it's true*: **accurate**, correct
- 2 *people are still willing to pay for true craftsmanship*: **genuine**
- 3 *the true owner of the goods*: **rightful**
- 4 *the necessity for true repentance*: **sincere**
- 5 *she was always a true friend to me*: **loyal**
- 6 *a true reflection of life in the 50s*: **accurate**, true to life

1と6は同じ accurate が類義語として第1に挙げられているが、1は「正しい」(correct) という意味であり、6は「本物そっくりの」(true to life) という意味であり、若干意味が異なるが、かなり近い語義であることには変わらない。

### 3.4 形容詞を修飾する副詞

副詞には様々な文法的な役割があると同時に、その意味も多岐にわたる。Biber, *et al.* (1999: 552-563) は副詞の担う意味を、以下の7つに大別し、該当する副詞の例を提示している。(下線は筆者による、副詞の訳語は一部『現代英文法辞典』(1992)を参考にした。)

- place adverbs (例: here, there, away)
- time adverbs (例: now, then, always, never, ago, later)
- manner adverbs (例: together, significantly, well)
- degree adverbs (例: very, so, really, too, completely, absolutely, totally, extremely, highly, entirely, fully)
- additive/restrictive adverbs (例: too, also; just, only, especially, particularly)
- stance adverbs (例: of course, probably, sort of, perhaps, kind of, generally, certainly)
- linking adverbs (例: then, so, however, e.g., i.e., therefore, thus)

本論と特に関係がある副詞は、程度の副詞 (degree adverbs) と付加的/制限的副詞 (additive/restrictive adverbs) と態度表明の副詞 (stance adverbs) である。上記の表で程度の副詞として例示した副詞は増幅詞/強意詞 (amplifiers/intensifiers) と呼ばれる副詞であり、次に来る形容詞の程度を強める働きをする。その反対に、次に来る形容詞の程度を下げる役割をしているのが、縮限詞/緩和詞 (diminishers/downtoners) であり、例としては slightly, somewhat, almost, nearly, far from などがある。追加の副詞 (additive adverbs) とは、何か別のことを新たに追加する目的で使用する副詞であり、also や too などがある。その反対に、ある事柄に限定してその部分を強調するとき使用する副詞は限定の副詞 (restrictive adverbs) である。例としては、just, only, especially, particularly などがある。Stance とは、Biber, *et al.* (1999: 966) によれば、話し手の個人的な感情 (personal feelings)、態度 (attitudes)、価値判断 (value judgments)、評価 (assessments) のことである。この stance を表明する副詞が態度表明の副詞 (stance adverbs) であり、その下位分類に認識に関する副詞 (epistemic stance adverbs) (例: certainly, actually, reportedly, typically, kind/sort of)、態度に関する副詞 (attitude stance adverbs) (例: unfortunately, surprisingly)、様式に関する副詞 (style stance adverbs) (例: honestly, simply) がある。

## 4. 一般英語と司法英語における correct、right、true の使われ方

本論では、Sketch Engine の Word Sketch Difference 機能（以後、WSD と略す）や必要ならば Concordance 機能や Word Sketch 機能を使い、これら 3 つの形容詞の一般英語と司法英語での使われ方の違いや意味の違い等について明らかにする。主たる調査項目は、以下の 2 点である。

- (1) これらの形容詞がどのような名詞を前置修飾しているのか
- (2) これらの形容詞をどのような副詞が修飾しているのか

### 4.1 Correct の使われ方

表 2、表 3、表 4 は、*BNC*、*US*、*UK* において、correct、right、true がどういう名詞を前置修飾しているのか、あるいはしていないのかを WSD の機能を使って比較し、LogDice の数値の高い順に代表的な被修飾名詞にその使用頻度を付けて並べたものである。例えば、*BNC* において correct は名詞 entry を全部で 69 回前置修飾しており、その共起する強さは LogDice の数値で 8.7 であるが、right が entry を前置修飾している例はないことを示している。この LogDice の数値が高ければ高いほど両語の共起する確率も高くなることを表している<sup>1)</sup>。

表 2 *BNC* における correct、right、true のコロケーションの違い

correct/right	freq.	freq.	Log D	Log D	correct/true	freq.	freq.	Log D	Log D	right/true	freq.	freq.	Log D	Log D
entry	69	0	8.7	—	answer	124	0	9.4	—	hand	744	0	9.7	—
diagnosis	23	0	7.6	—	entry	69	0	8.7	—	hon.	406	0	9.7	—
spelling	20	0	7.6	—	diagnosis	23	0	7.6	—	angle	320	0	9.2	—
interpretation	47	6	8.2	3.5	spelling	20	0	7.6	—	side	534	0	9.1	—
answer	124	112	9.4	7.6	interpretation	47	7	8.2	4.8	friend	1,532	46	10.7	6.3
word	109	173	7.8	7.6	word	109	20	7.8	5.1	gentleman	616	15	10	5.6
angle	20	320	7.1	9.2	feeling	4	63	4.1	7.6	feeling	6	63	3.3	7.6
side	8	534	3.8	9.1	enough	0	48	—	7.7	love	7	117	3.6	8.8
hon.	0	406	—	9.7	self	0	64	—	8.2	enough	0	48	—	7.7
hand	0	744	—	9.7	nature	0	137	—	8.6	self	0	64	—	8.2
gentleman	0	616	—	10	story	0	147	—	8.8	nature	0	137	—	8.6
friend	0	1,532	—	10.7	love	0	117	—	8.8	story	0	147	—	8.8

表3 USにおける correct、right、true のコロケーションの違い

correct/right	freq.	freq.	Log D	Log D	correct/true	freq.	freq.	Log D	Log D	right/true	freq.	freq.	Log D	Log D
copy	9	0	9.4	—	copy	9	0	9.4	—	knee	39	0	11.8	—
outcome	7	0	9.4	—	outcome	7	0	9.4	—	arm	25	0	11	—
sir	4	0	8.9	—	sir	4	0	8.9	—	shoulder	15	0	10.5	—
standard	45	0	8.8	—	standard	45	0	8.8	—	side	18	0	10.3	—
response	6	0	7.9	—	answer	5	0	8.1	—	hand	24	0	10.1	—
answer	5	3	8.1	7.2	response	6	0	7.9	—	leg	12	0	9.8	—
leg	0	12	—	9.8	location	0	6	—	8.6	location	0	6	—	8.6
hand	0	24	—	10.1	boundary	0	5	—	8.6	boundary	0	5	—	8.6
side	0	18	—	10.3	conflict	0	8	—	8.8	conflict	0	8	—	8.8
shoulder	0	15	—	10.5	object	0	6	—	9	object	0	6	—	9
arm	0	25	—	11	owner	0	18	—	9.4	owner	0	18	—	9.4
knee	0	39	—	11.8	enough	0	5	—	9.4	enough	0	5	—	9.4

表4 UKにおける correct、right、true のコロケーションの違い

correct/right	freq.	freq.	Log D	Log D	correct/true	freq.	freq.	Log D	Log D	right/true	freq.	freq.	Log D	Log D
construction	20	0	9.3	—	approach	104	0	10.6	—	side	9	0	9.3	—
interpretation	40	4	10.1	7.2	answer	19	0	9.4	—	answer	13	0	9.3	—
analysis	36	5	9.8	7.3	conclusion	18	0	8.6	—	balance	14	0	9.2	—
test	68	12	10	7.7	test	68	6	10	6.5	conclusion	23	0	9.2	—
approach	104	22	10.6	8.6	analysis	36	5	9.8	7	course	12	0	8.8	—
answer	19	13	9.4	9.3	interpretation	40	20	10.1	9.2	result	10	0	8.7	—
conclusion	18	23	8.6	9.2	position	7	26	7.1	9	interpretation	4	20	7.2	9.2
result	8	10	7.9	8.7	construction	20	87	9.3	11.5	fact	0	26	—	8.9
question	14	25	7.5	8.5	meaning	3	26	6	9.1	position	0	26	—	9
course	0	12	—	8.8	wish	0	7	—	8.6	nature	0	20	—	9.1
balance	0	14	—	9.2	fact	0	26	—	8.9	meaning	0	26	—	9.1
side	0	9	—	9.3	nature	0	20	—	9.1	construction	0	87	—	11.5

各コーパスにおいて correct によってのみ前置修飾される名詞は以下の通りである。(左の数値は使用頻度を、右は LogDice の数値である。以下同様)

BNC entry (69: 8.7) diagnosis (23: 7.6) spelling (20: 7.6)

US copy (9: 9.4) outcome (7: 9.4) sir (4: 8.9) standard (45: 8.8)  
response (6: 7.9)

UK 該当なし

#### 4.1.1 BNCにおける correct の使われ方

BNCにおいて entry、diagnosis、spelling の3つの名詞は correct によってのみ前置修飾され、他の形容詞とは共起しない。以下にそれぞれの語の事例を挙げ、コンテキスト内における具体的な意味について見てゆく。(diagnosisについては、表4に出る程の高頻度ではないが right diagnosis という用例が UK に3つある。Right diagnosis で、「(間違っていない、正しい) 診断」という意味である。)

- [1] The first **correct entry** drawn on March 3rd 1992 will win a pot of 500 EfaCoat capsules (containing evening primrose oil and vitamin E), worth over £ 20. (BNC)
- [2] The **correct diagnosis** of acute appendicitis depends on clinical acumen and experience. (BNC)
- [3] Always double check releases for the **correct spellings** of names, places and addresses, brands, lists, ingredients and the like. (BNC)

[1]の correct entry とは「正解を当てた応募」という意味だが、以前日本でよくあったテレビ番組の最後にクイズなどを出し、その答えをテレビ局に送ると正解者の中から抽選で賞品などが当たるという話である。ここでいう correct とは、「そのクイズが正解とする答えと同じ答えを書いた応募、正解者」という意味である。[2]の correct diagnosis の例は、「急性盲腸の正確な診断ができるかは、臨床における洞察力と経験にかかっている」という意味で、この correct は「病状に対して医学的に正しい診断」という意味である。[3]の correct spelling は、「名前や住所等の綴りを正しく書くためには、ダブルチェックをすると安心だ」という意味で使用されており、その正しい綴りと自らが書いた綴りとが一致していることを指すものである。これらの3つの例に共通していることは、どれも正しい答えや実体が既に存在し、それと合致しているがゆえに correct 「正しい」のであり、OED の correct の語義と同じ判断である。

#### 4.1.2 USにおける correct の使われ方

USにおいては、copy、outcome、sir、standard、response の5つの名詞は、correct によってのみ前置修飾され、right と true が前置修飾することはない。

- [4] Attached hereto as Exhibit B is a **true and correct copy** of the Platinum Visa Credit Card Application executed by Defendant. (US)
- [5] If there is only one **legally correct outcome**, then discretion is an inapplicable concept. (US)
- [6] The nurse responded "That is **correct, sir**". (US)
- [7] the workers' compensation board had failed to apply the **correct legal standard** (US)

- [8] it is clear that the juror did fail to answer a material question, and that a **correct response** would have provided a basis for a challenge for cause (US)

WSD の分析によれば、[4] の名詞 copy は形容詞 correct によってのみ前置修飾され、right や true によって前置修飾されることはないとの分析結果が出ているが、concordance 機能を使って全 9 例を調べてみると、9 例とも [4] のように true and correct という形で correct と共に true も copy を修飾していることが判明した。WSD の分析エラーである。同様に、[6] も sir は呼びかけであって、correct によって修飾されているわけではないので、これもエラーである。

[5] は「もしも法的に正しい結論があるとするなら、それは裁量権を適応すべきではないというものである」という意味であるが、ここでの correct は legally という限定された範囲あるいは条件の下では「正しい」という意味である。このように副詞を伴いその範疇において「正しい」と断定する表現方法は、correct という形容詞の典型的な使用法である。US では、correct と outcome が共起する事例は全部で 7 例あるが、そのうちの 6 例が legally correct outcome となっている。

[7] のように correct が standard を前置修飾する例は US で 45 例あるが、そのうち correct standard が 17 例、間に legal を挟んだ correct legal standard が 23 例ある。Correct legal standard は言語学的には legally correct standard と言い換えが可能であるが、面白いことに US の中にはこのように言い換えられた例は一つもない。

US において名詞 response は全部で 1,607 回使用されているが、そのうち correct に前置修飾される例は 6 例であり、それほど多くはない。Word Sketch を使って correct 以外にどのような語が response を前置修飾するのかを調べてみると、discovery (24)、written (18)、FOIA (17)、inaccurate (14)、party's (8)、plaintiff's (8)、defendant's (8)、emotional (7)、reasonable (7)、questionnaire (6)、juror's (6) などが検索できた。Response は in response (to) のように副詞相当語句として 697 回使用されており、形容詞によって前置修飾されることはそれほど多くはない。

#### 4.1.3 UK における correct の使われ方

UK において、correct によってのみ前置修飾され、他の 2 つの形容詞には前置修飾されないという名詞はない。検索の範囲を LogDice の数値が 7.9 以上まで広げてみると、correct のみと共起する名詞に以下の 4 語があることが分かった。

method (8: 8.5), summary (6: 8.1), understanding (6: 8.0), view (12: 7.9)

- [9] What is the **correct method** of calculating the losses available to be transferred? (UK)  
 [10] In my judgment, this decision of the Supreme Court of Victoria stands as an essentially



**correct summary** and statement of the common law rule. (UK)

[11] It seems to me that, in dealing with the issue of necessity, the approach of the Divisional Court was based upon a **correct understanding** of the law. (UK)

[12] The **correct view**, as it seems to me, is that there must be some solid material from which such inferences can be drawn. (UK)

これらの例はどれもが、専門的な見地から見た、あるいは法律の考え方における「正しい」(計算)方法 (method) であり、要約 (summary) であり、理解の仕方 (understanding) であり、考え方 (view) について述べたものである。いわばこれらは裁判官が判決において提示する法的な観点から判断した「正解」であり、これ以外は「誤り」ということを強く示唆したものである。

#### 4.1.4 Correct を修飾する副詞

どのような副詞によって形容詞が修飾されているのかを見ることで、その形容詞の特定のジャンルにおいて使用される基本的な意味を理解することができる。以下の表は、BNC、US、UKそれぞれにおいて、correct、right、true がどのような副詞によって修飾されているのか、あるいはないのかを、WSD を使ってまとめたものである。

表5 BNCにおいて correct、right、true を修飾する副詞

correct/right	freq.	freq.	Log D	Log D	correct/true	freq.	freq.	Log D	Log D	right/true	freq.	freq.	Log D	Log D
politically	54	0	9.8	—	politically	54	0	9.8	—	surely	21	0	7.4	—
grammatically	18	0	9.7	—	grammatically	18	0	9.7	—	morally	12	0	7.3	—
factually	10	0	9	—	factually	10	0	9	—	far	70	0	7.1	—
syntactically	10	0	9	—	syntactically	10	0	9	—	absolutely	190	43	9.9	7.5
ideologically	9	0	8.6	—	ideologically	9	0	8.6	—	quite	329	111	8.6	6.9
objectively	6	0	7.9	—	objectively	6	8	7.9	6.3	probably	96	100	7.2	7.2
morally	5	12	7.2	7.3	perfectly	25	48	7.6	7.9	perfectly	12	48	6.1	7.9
surely	5	21	5.9	7.4	strictly	6	34	6.3	7.8	certainly	17	175	5.3	8.6
probably	22	96	5.1	7.2	equally	4	57	4.5	7.9	strictly	0	34	—	7.8
absolutely	22	190	7.1	9.9	certainly	7	175	4.2	8.6	equally	0	57	—	7.9
quite	40	329	5.6	8.6	particularly	0	177	—	8.6	particularly	0	177	—	8.6
far	0	70	—	7.1	especially	0	100	—	8.9	especially	0	100	—	8.9

表6 USにおいて correct、right、true を修飾する副詞

correct/right	freq.	freq.	Log D	Log D	correct/true	freq.	freq.	Log D	Log D	right/true	freq.	freq.	Log D	Log D
presumptively	4	0	9.7	—	presumptively	4	0	9.7	—	quite	2	0	8.2	—
legally	12	0	9.5	—	legally	12	0	9.5	—	there	2	0	6.6	—
technically	2	0	9.2	—	likely	3	0	8	—	not	3	25	0.3	3.4
absolutely	2	0	8.7	—	therefore	3	0	5.7	—	often	0	2	—	6.2
likely	3	0	8	—	not	12	25	2.3	3.4	substantially	0	4	—	7.2
substantially	2	0	6.4	—	also	4	9	3.5	4.6	obviously	0	3	—	8.1
therefore	3	0	5.7	—	as	0	66	—	8.2	as	0	66	—	8.2
generally	2	0	5.6	—	undoubtedly	0	3	—	8.6	undoubtedly	0	3	—	8.6
also	4	0	3.5	—	certainly	0	8	—	9.1	certainly	0	8	—	9.1
not	12	3	2.3	0.3	literally	0	4	—	9.2	literally	0	4	—	9.2
there	0	2	—	6.6	particularly	0	15	—	9.9	particularly	0	15	—	9.9
quite	0	2	—	8.2	especially	0	17	—	10.5	especially	0	17	—	10.5

表7 UKにおいて correct、right、true を修飾する副詞

correct/right	freq.	freq.	Log D	Log D	correct/true	freq.	freq.	Log D	Log D	right/true	freq.	freq.	Log D	Log D
factually	4	0	9.7	—	factually	4	0	9.7	—	plainly	22	0	10	—
broadly	5	0	8.8	—	plainly	11	0	8.9	—	clearly	13	0	8	—
strictly	3	0	7.8	—	broadly	5	0	8.8	—	entirely	4	0	7	—
certainly	3	0	7.5	—	clearly	13	0	8	—	obviously	5	4	8.6	8.2
undoubtedly	9	3	9.5	8	entirely	8	0	7.9	—	undoubtedly	3	5	8	8.6
entirely	8	4	7.9	7	undoubtedly	9	5	9.5	8.6	quite	5	11	7.5	8.6
clearly	13	13	8	8	certainly	3	12	7.5	9.4	equally	0	9	—	8.8
therefore	6	9	5.8	6.4	equally	0	9	—	8.8	unquestionably	0	3	—	8.9
also	12	20	5.5	6.3	unquestionably	0	3	—	8.9	particularly	0	11	—	9
plainly	11	22	8.9	10	particularly	0	11	—	9	certainly	0	12	—	9.4
quite	0	5	—	7.5	perfectly	0	8	—	9.5	perfectly	0	8	—	9.5
obviously	0	5	—	8.6	especially	0	7	—	9.7	especially	0	7	—	9.7

各コーパスにおいて correct のみを修飾する副詞は以下の通りである。

BNC politically (54: 9.8) grammatically (18: 9.7) factually (10: 9)  
 syntactically (10: 9) ideologically (9: 8.6)

US presumptively (4: 9.7) legally (12: 9.5) likely (3: 8) therefore (3: 5.7)

UK factually (4: 9.7) broadly (5: 8.8)

#### 4.1.4.1 BNCにおいて correct を修飾する副詞

以下に示すのが、BNCにおいて right や true は修飾せず、correct のみを修飾する副詞の使用例である。

- [13] I am neither a religious person nor a politically correct thinker, (BNC)
- [14] So linguists too tend to come up with grammatically correct, but somewhat peculiar examples (BNC)
- [15] the principles may well also be factually correct, (BNC)
- [16] The sentences heard were either normal prose or syntactic prose which was syntactically correct but semantically anomalous. (BNC)
- [17] the question of what is morally or ideologically correct is not at issue here (BNC)

これらの副詞はどれも特定の分野を示す副詞であり、その分野内における基準に照らし合わせて、少なくともその分野の範囲内では、「正しい」のだということを言わんとするものである。見方を変えれば、その分野以外の別の基準が適用されれば、同じ現象であっても間違いとなる可能性があることを暗示するものでもある。

Correct は絶対形容詞に分類されるが、その「正しい」という判断は、限定された特定の分野や範囲に適応されることが多く、必ずしも全般的な判断ではない事例が多いように思われる。この correct の特徴は、絶対形容詞を修飾するのに用いられる absolutely や perfectly などの副詞の共起頻度が、correct は absolutely が 22 回、perfectly が 25 回であるのに対して、right では absolutely が 190 回、perfectly が 12 回、true では absolutely が 43 回 perfectly が 48 回であり、その共起頻度が低いことから理解できる。

#### 4.1.4.2 USにおいて correct を修飾する副詞

BNC であれほど見られた特定の分野を表す副詞は legally 以外に見あたらない。その一方で確信度を表す presumptively や likely などの態度表明を表す副詞が使用されているのが US の特徴である。

- [18] While the findings are presumptively correct, the appellate court may examine all of the properly admissible evidence in the record. (US)
- [19] there is only one legally correct course of action that could follow from that finding by the trial court (US)
- [20] the other meaning is more likely correct (US)

#### 4.1.4.3 UKにおいて correct を修飾する副詞

UK において、correct とのみ共起する副詞は、factually と broadly のみである。

- [21] The third point appears a factually correct representation of the outcome of Stone & Rolls (UK)
- [22] We accept that the Attorney General is broadly correct in his submission as to these effects. (UK)

[21]の factually correct とは「事実上、事実としては正しい」という意味であり「事実という範疇、関連においていえば」という限定された範囲内における「正しさ」を述べている文である。[22]の broadly correct とは、「広い意味では、広義においては正しい」という意味の態度表明の副詞 (stance adverbs) で、これも特定の範囲内での正しさを言うものである。

## 4.2 Right の使われ方

各コーパスにおいて right によってのみ前置修飾される名詞は以下の通りである。

BNC : hon. (406: 9.7) hand (744: 9.7)

US : knee (39: 11.8) arm (25: 11) shoulder (15: 10.5) side (18: 10.3)  
hand (24: 10.1) leg (12: 9.8)

UK : side (9: 9.3) balance (14: 9.2) course (12: 8.8)

### 4.2.1 BNC における right の使われ方

表 2 によれば、right とのみ共起し、correct や true とは共起しない名詞は、hon. と hand である。Right hand は「右手」ということで除外する。この hon. というのは honourable の略であり、right honourable Gentleman とは男性議員に対する尊称であり、right honourable Member は議員に対する尊称である。My right hon. and learned Friend も同様である。これら right hon. Gentleman/Member/Friend の例は、本論の研究目的とは異なるため除外する。

- [23] I ask the right hon. Gentleman to study the papers that I issued on Friday. (BNC)
- [24] The right hon. Member for Blaby may not like the idea of a European central bank (BNC)
- [25] my right hon. and learned Friend the Member for Surrey, East (Sir G. Howe) (BNC)

検索の範囲を LogDice の数値が 7.7 まで広げてみると、LogDice の数値がそれ程高くはないものの、right とのみ共起する名詞に以下の 3 語があることが分かった。

kind (146: 7.8), moment (137: 7.7), sort (133: 7.7)

- [26] The club was just the **right kind of** venue for them to cut their professional teeth on  
(*BNC*)
- [27] Actually, you've come at just the **right moment**. (*BNC*)
- [28] I want to get the **right sort of** thing for you. (*BNC*)

[26]は、「その場所は彼らが専門性を身に付けるにはちょうど良い場所にあった」という意味であり、*OED* の語義区分では 7. a.(a) が、*OTE* の語義区分では 3 の *suitable* が該当する例である。[27]の *right* の意味は、*OED* では 7. a.(a) が最も近く、*OTE* の意味区分では 4 の *opportune* の意味が合致する。[28]も[26]と同様に *OED* では 7. a.(a) が、*OTE* は 4 が該当するであろう。この [26] *kind* と [28] *sort* を名詞と解釈して、*right* が前置修飾すると解釈すれば、「正しい種類/類の場所」「正しい種類/類の物」という意味になる。*Kind of* や *sort of* 全体の意味を、Biber, *et al.* (1999) と同様に和らげるための副詞相当語句 (adverbials) と解釈すれば、「どちらかと言えばちょうどいい場所/物」という意味になろう。

完全に *correct* と *true* の共起頻度がゼロにはならないものの、ほぼ *right* が使用される名詞は以下の 6 語である。(左側の数字は *right-correct-true* の使用頻度、右側はそれぞれの *LogDice* の数値である)

*angle* (320-20-0: 9. 2-7. 1), *side* (534-8-0: 9. 1-3. 8), *direction* (312-14-0: 9-9),  
*place* (372-41-0: 8. 5-8. 5), *thing* (408-19-7: 8. 1-8. 1-2. 5), *time* (416-16-0: 7. 5-7. 5)

- [29] One main street, set roughly at **right angles**, ran north and south from it (*BNC*)
- [30] I would like my children to stay healthy, on the **right side** of the law, and lead fulfilling lives without taking any risks. (*BNC*)  
cf. This occurs in a crossed fashion, with the **left hemisphere** controlling the **right side**  
(*BNC*)
- [31] it does indicate *erm*, a movement, in the **right direction** of getting more *er* women employees into higher management levels (*BNC*)
- [32] 'I just happened to be in the **right place** at the **right time**.' (*BNC*)
- [33] Help me to do the **right thing**, she prayed silently. (*BNC*)

[29]の *right angle* は「直角」という定型表現である。この *right* の意味は原義の「直線的な動き」から直接派生したものである。[30]の *right side* は「(法律に照らし合わせて) 正しい側」という意味である。参考にあげた同じコロケーションの *right side* は、「(脳の) 右側」という意味で使用されている。[31]の *right direction* は「正しい方向」という意味であるが、*OED* はこの語義を 6. d. として独立させて定義しているのは前述の通りである。[32]の *right place*、*right time*

は OTE が類義語として掲載している *opportune* の意味である。[33] の *right thing* は祈りの中で使われているもので、「(キリスト教の教義や倫理観に照らし合わせて) 正しい行い」という宗教上の意味であり、OED の 6.b. の定義に合致する例である。

Right は絶対形容詞 (absolute adjective) であり、程度の副詞とは共起せず、比較級や最上級としても使用されないことになっている。『ウイズダム英和辞典』(2020: 1690) は以下のようにコメントしている。

Right は極限状態を表すので、強調する時は通例 *very* ではなく、次のような副詞を用いる *absolutely, quite, exactly, perfectly*, 《くだけで》 *dead*

Sketch Engine を使って形容詞 *right* を修飾する副詞を検索してみると以下のような副詞と高頻度で共起することが分かった。

*quite* (329), *absolutely* (190), *just* (101), *probably* (96), *about* (89), *far* (*right*) [右端] (70), *only* (56), *always* (41), *exactly* (33), *much* (33), *entirely* (27), *also* (26), *so* (24), *surely* (21), *certainly* (17), *partly* (13), *morally* (12), *perfectly* (12), *dead* (11), *as* (11), *very* (11), *necessarily* (10), *well* (9), *undoubtedly* (8), *completely* (8), *clearly* (7), *almost* (7), *often* (6), *never* (6)

『ウイズダム英和辞典』や文法書が指摘するような完全性を表す副詞 (下線で示す) が圧倒的に多いが、必ずしもそうとは言えないような副詞と共起する例も散見された。

[34] Mr is quite **right** and there is a mistake there (BNC)

[35] It is a big book, you're absolutely **right**. (BNC)

[36] I suppose you always do everything so **right** that you can't imagine making a mistake.' (BNC)

[37] 'Nothing is wrong; on the contrary, everything is very **right**.' (BNC)

[38] The time was about **right** but conditions were quite different (BNC)

#### 4.2.2 US における *right* の使われ方

表 3 によると、*right* によってのみ前置修飾される名詞は、*knee, arm, shoulder, side, hand, leg* の 6 語である。検索の範囲を LogDice が 7.7 まで上げると、*right* とのみ共起し、*correct* や *true* とは共起しない語は、以下の通りである。

lane (9: 9.7), foot (11: 9.7), turn (8: 9.6), neuropathy (4: 8.7), thumb (3: 8.3), ankle (3: 8.3), eye (4: 8.3), wrist (3: 8.3), (leg/knee) pain (4: 7.8), hip (2: 7.8), fork (2: 7.8), angle (2: 7.7), ear (2: 7.7)

これらの語は全て「右の」という意味の right と共起しており、「正しい」という意味での用法は一つもない。いかに、right=「右の」という意味での使用例が多いのかが分かる。US において、right と correct のどちらの形容詞とも共起可能な名詞は answer (3-5: 7.2-8.1)、result (4-7: 6.7-7.6)、decision (4-3: 4.6-4.2) の3語のみであり、right と true のどちらの形容詞とも共起する名詞はゼロである。これもまた、US において「右の」という意味の right の使用例が圧倒的に多数を占め、correct や true と類似する「正しい」という意味での使用例が少ないことを意味している。Right=「右の」という意味が US では極めて多い証左である。

では、US では right は「右の」という語義以外では使用されないのかというと、必ずしもそうではない。Sketch Engine の Word Sketch 機能を使って、「右の」という語義以外で形容詞 right が名詞を前置修飾している例を検索してみると、頻度数3回以上の例は、以下の6語であることが判明した。

thing (4: 7.3), result (4: 6.7), decision (4: 4.6), answer (3: 7.2), way (3: 6.9), question (3: 5.4)

- [39] She did say she wanted to make sure she was doing the **right thing** (US)
- [40] Finally, we will affirm the superior court's judgment given though the court may have reached the **right result** for the wrong reason. (US)
- [41] Did Eric Purifoy's Jury make the **right decision**? (US)
- [42] If there are no **right answers**, there are no wrong answers either. (US)
- [43] I guess that's not the **right way** of saying it (US)
- [44] The same ignorance that precipitates the need for answers often limits the ability to ask precisely the **right questions**. (US)

[39]は裁判における口頭弁論での一部であり、ここでの right は単に正しいという意味ではなく、「(倫理的・道徳的に見て) 正しい、間違っていないこと」という意味である。[40]は right と wrong の対比の中での right の意味であり、一般的な意味での「正しい」という意味である。[41]では、「陪審員が正しい決定をしたのか」という意味であり、法律の意味においてという限定された範囲の中における「正しい判断」という意味である。[42]は一般論における「正しい答え」と「間違った答え」の対比を述べている箇所であり、ここでは一般的な意味での「正しい答え」という意味である。[43]の right は、proper あるいは polite という意味である。[44]は、「正



しい質問を正確にする能力」という意味であり、ここでの right は一般的な意味での「正しい」である。

#### 4.2.3 UK における right の使われ方

表 4 によれば、形容詞 right のみによって前置修飾され、correct や true には前置修飾されない名詞は、side、balance、course の 3 語であり、検索の範囲を最大限広げ、LogDice が 5.5 まですべて取り上げると以下の 5 つの名詞が続く。

thing (3: 8.5), way (6: 6.9), time (6: 6.8), word (3: 6.3), point (3: 5.5)

- [45] Wherever the line is drawn, there will be many young people on the wrong side of it whose connection with the United Kingdom will be just as strong and enduring as that of many others who find themselves on the **right side**. (UK)  
 cf. she was found to have multiple fractures to her ribs, caused on at least two occasions, bruising to her left jaw, **right side** of her face, left shoulder and left inner elbow (UK)
- [46] The courts have a difficulty in striking the **right balance** between different policy issues under English law (UK)
- [47] He held that the **right course** was to adopt the later date, for reasons which he expressed as follows, (UK)

[45]の right side は、同じく文中にある wrong side (「反社会的な集団、よこしまな人々の側」)との対比における表現であり、「法になかった人々、まっとうな側」という意味である。Side は 9 例中 5 例が[45]のように「正しい」という意味の right と使用されているが、残りの 4 例は参考として示してあるように「右の」という意味の right との共起である。Balance との共起は 14 例あり、そのうちの 9 例が[46]にある strike the right balance (正しいバランスを取る)という成句表現である。[47]の right course は、「取るべき正しい手順」という意味である。UK において right とのみ共起する 8 語はどれも平易で一般的な語ばかりである。この right の特徴は US でも同様である。

#### 4.2.4 Right を修飾する副詞

表 5、表 6、表 7 によれば、各コーパスにおいて right を修飾するが、それ以外の correct や true は修飾しない副詞は以下の通りである。

BNC: far (70: 7.1)

US: quite (2: 8.2) there (2: 6.6)

UK: 無し

#### 4.2.4.1 BNCにおいて right を修飾する副詞

BNCにおいて、rightのみを修飾し、correctやtrueを修飾しない副詞はfarのみである。範囲を広げて検索すると、以下の5つの副詞がrightのみを修飾することが分かった。

about (89: 6.3), damn (6: 6.5), dead (11: 7), just (101: 5.1), nearly (6: 4.7)

[45] former P&O European Ferries Freight Manager at Zeebrugge, Charles Claeys (far right) (BNC)

[46] We intend making the struggle against the far right (BNC)

[47] The time was about right but conditions were quite different (BNC)

[48] He was damn right, wasn't he? (BNC)

[49] Yeah, you're dead right Bill. (BNC)

[50] when it comes to baking, I think you're just right! (BNC)

[51] Hubert was nearly right in his assessment of the situation. (BNC)

[45]は「一番右の」という意味で写真に写っている位置を言っているものである。[46]は、「一番右の→最右翼の」という政治的信条を言ったものである。どちらも「右の」という意味では共通している。

範囲を広げた中で出てきたrightを修飾する5つの副詞は、大きく分けて「おおよそ、だいたい、ほぼ」などalmostとほぼ同義で使用されている[47]と[51]の例と、強意の副詞として使用されている[48][49][50]の例である。これら5つの例の中で、[50]と[51]は一般的な用法であるが、それ以外の[47]のaboutは口語的な表現であり、[48]のdamnと[49]のdeadは増幅詞であり、くだけたぞんざいな用法である。Rightがdamnやdeadなどの増幅詞と共起することも、rightが日常生活に深く入り込んだ形容詞であることの表れである。

#### 4.2.4.2 USにおいて right を修飾する副詞

USにおいて、rightのみを修飾し、correctやtrueを修飾しない副詞はquiteとthereである。範囲を広げて検索しても、この2語以外にrightだけを修飾する副詞はない。

[52] The district court was quite right in granting summary judgment to Visa and enjoining JSLfs use of the mark. (US)

[53] Munich: No, he lives right there, I know him, I mean he's standing right there right on

the fence line (US)

[52]の quite は直後の形容詞 right を修飾する増幅詞 (amplifier) である。[53]の right と there の関係は、本論が論じている形容詞 right とそれを修飾する副詞との関係ではなく、場所を表す副詞 there を修飾する増幅詞としての right の用法で、「まさにそこに」「まさに塀の上に」という意味である。ということは、US において形容詞の right だけを修飾する副詞は quite のみであり、その用例数も 2 例しかない。

#### 4.2.4.3 UK において right を修飾する副詞

表 7 の UK において、right のみを修飾し、correct や true を修飾しない副詞はない。範囲を広げて検索すると、no (4: 6.0) と only (9: 5;8) の 2 語が right のみを修飾することが分かった。

[54] There is no right to have a consideration of the lawfulness of the detention (UK)

[55] It is only right to acknowledge that...I have somewhat reformulated my reasoning after having had the benefit of their respective analyses of this issue. (UK)

[54]の right は名詞で「権利」という意味であり、それを前置修飾する no は形容詞であり、本論が論じている事柄とは異なる。[55]の only は直後の形容詞 right を修飾する限定の副詞であり、only right は形容詞で「～なのは至極当然である」という意味である。このように見てゆくと、UK において right のみを修飾する副詞はこの only だけで、その事例数も 2 例しかない。

### 4.3 True の使われ方

各コーパスにおいて true によってのみ前置修飾される名詞は以下の通りである。

BNC : story (147: 8.8) nature (137: 8.6) self (64: 8.2)

US : owner (18: 9.4) object (6: 9) conflict (8: 8.8) boundary (5: 8.6)  
location (6: 8.6)

UK : nature (20: 9.1) fact (26: 8.9)

#### 4.3.1 BNC における true の使われ方

表 2 によれば、true によってのみ前置修飾され、correct や right には前置修飾されない名詞は、story、nature、self の 3 語である。

[56] The true story of a major league baseball star who went from the street corner to stardom and then to armed robbery but is saved from destruction by a one in a million chance.

(BNC)

- [57] Sooner or later a woman will show her **true nature**. (BNC)
- [58] Vauban still does not know the **true nature** of our mission here.' (BNC)
- [59] This was the **real** Damian Flint, and the **mask of ruthless ambition** he wore was his **true self**. (BNC)

[56]の true story とは、日本語に訳せば「本当の話、実際にあった話、実話」となる。OED の語義分類で言えば 7. a に該当するが、OALD にある 2 番目の語義と例文が最もよくここでの語義を表している。

2 real or exact, especially when this is different from how sth seems  
*the true face of war* (=what it is really like rather than what people think it is like) (OALD)

Nature は、「自然」という意味以外に、[57]で使われている「(人間などの) 性質、性格、気質」という意味や、[58]の「(物事などの) 本質、特質、特徴」という意味がある。前者の場合には所有格の代名詞を伴うことが多いが、後者の場合には定冠詞の the を伴う。両方の例における true は、OALD の 2 番目の語義で示された real or exact との類似性を強く感じさせる用法である。[59]の true self とは、「本当の自分、自己」という意味であり、これも OALD の 2 番目の定義に該当する例で、[59]の例文中にある real とはほぼ同義であり、the mask of ruthless ambition が彼の本当の自分なのである。

検索の範囲を最大限拡大してみると、BNC において true とのみ共起する名詞は、LogDice の数値が若干下がるものの以下の 10 語がある。

belief (51: 7.6), identity (46: 7.6), construction (45: 7.5), believer (31: 7.4), extent (38: 7.3), cost (80: 7.1), potential (31: 7), fact (35: 6.9), reflection (24: 6.9), happiness (22: 6.9)

- [60] In both classroom and staffroom they want to be **authentic and energetic**: to be able to display their **enthusiasm** and **true beliefs** without being disparaged. (BNC)
- [61] As an enemy, he was still very much an unknown quantity to them. The only thing they could be certain of was his propensity for violence. They did not even know his **true identity**. (BNC)
- [62] **True happiness**, according to Jesus, comes about when we turn away from the commonly-accepted prescriptions for happiness to abandon ourselves to God. (BNC)

[60]で、彼らが「馬鹿にされないよう」努めたことは authentic で energetic であることであり、示したことは enthusiasm であり true belief である。ここで言う true belief とは、「(周りの人々には今は理解されていないが、自分たちの) 正真正銘の、本物の、本当の信念」なのである。[61]の true identity とは、「本当はどういう人物なのか、確かな身元」であり、謎に包まれた彼の「正体」である。[62]は、キリスト教の説教の一部であろう。ここで言う true happiness とは当然イエス・キリストが説く「真の幸せ、本当の幸福」という意味である。

これら3つの true の用法はどれも目の前の事柄と本当の事柄との乖離であり、「一見するとそのようには見えないが、実際は違って…なのである」という意味合いを強く滲ませた用法である。

True は love や feeling のような情緒的な名詞ともかなり強く共起するが、以下の3つの例も「本当の / 真実の愛」「本当の恋人、本当に愛すべき人」「本当の気持ち」という意味で使われており、[56]～[62]と基本的に同じ意味構造である。

[63] The course of **true** love never did run smooth. (BNC)

[64] On the contrary, she felt happy that he'd found **true** love at last. (BNC)

[65] My grandmother finds it difficult to show her **true** feelings. (BNC)

#### 4.3.2 USにおける true の使われ方

USにおいて true により前置修飾されるが、correct や right には前置修飾されない名詞は、

owner (18: 9.4), object (6: 9), conflict (8: 8.8), boundary (5: 8.6), location (6: 8.6)

の5語である。

[66] the Claimant filed a claim to the Mercedes asserting that she was the **true** owner of the vehicle (US)

[67] The **true** object of the contract between the firm and its client is the performance of a service and not the furnishing of tangible personal property. (US)

[68] We must first determine whether there is a **true** conflict between the relevant laws of California and Pennsylvania. (US)

[69] [I]f the location of the **true** boundary is not known to the adjoining owners, a parcel agreement between them fixing its location is not regarded as transferring an interest in land but merely determining the location of existing estates. (US)

[70] In fact, the record shows that the Bahrs' predecessors acknowledged that they did not know the **true** location of the boundary between their properties. (US)

[66]の true owner とは、「法的に正しい、合法的、法律にかなった所有者」という意味である。判決文における true は「(法律に照らし合わせて) 正しい」という部分が特に強調され、その意味での正当性に言及することが多い形容詞である。[67]の true object とはその直後にある of contract between the firm and its client (法律事務所と顧客との間の契約の) という文脈における「真の(契約の) 目的」という意味である。契約書も法的な文書なので、ここでの true は単に correct あるいは accurate という意味だけでなく、legal (法的な) という意味合いが付加されている。[68]も、「該当する両州の法律に、法的に矛盾するような問題が存在するの否かを最初に明らかにする必要がある」という意味であり、ここでの true は「法的な問題として取り上げるに値する」ということを意味するものである。[69]と[70]は true が boundary や location を前置修飾する事例であるが、ここで言う true boundary/location とは、単に「正しい境界線/(境界線の) 位置」というだけでなく、法的に見て正しいという意味での「正しさ」(legitimate、rightful) であることは明らかである。

US における true は、いずれも OED の 5 番目の定義、あるいは OTE の 3 番目の意味や例文の示す意味に関係しており、常に valid、rightful、legitimate という意味を意識した true の使用例である。BNC で数多く見られた exact、genuine あるいは real という意味や、Quirk, *et al.* (1985) が指摘するところの非本来的 (noninherent) での使用は見当たらない。

#### 4.3.3 UK における true の使われ方

UK で true によってのみ前置修飾され、correct や right によって前置修飾されない名詞は、nature と fact の 2 語である。

[71] However, the **true nature** of the claimant's condition was not appreciated until the following day when an ultrasound scan revealed the effusion and the infected hip joint.  
(UK)

[72] it is appropriate to pierce the corporate veil only where special circumstances exist indicating that it is a mere facade concealing the **true facts** (UK)

[71]の true nature は「本当のところ、真の状態」であり、後半の文面からも明らかのように、原告の体の本当の状態が翌日の精密検査で初めて判明するわけであり、それまでの一目見ただけの判断との対比を強く意識した true の使い方である。[72]は、「真実を隠す単なるうわべ/外見」と対極にある意味であり、ここでの true facts は上記の OED の 4. a. で定義するところの「事実との一致」であり、「現実との合致」を意味する表現である。UK における true の使い方の面白さは、BNC で多くみられる「一見そうには見えないが、実際には…である」という意味の true、すなわち real あるいは exact と類義語の関係にある true と、US で見られた、法律と照らし合わせて「正しい」という valid、rightful、legitimate という意味での使用例の 2 種類の意味が混在している点

である。

検索の範囲を LogDice の数値が 8 以上にまで広げると以下の 6 つの名詞も true にのみ前置修飾される名詞であることが判明した。その名詞とその用例を以下に提示しておく。

wish (7: 8.6), owner (13: 8.5), intention (11: 8.5), ratio (6: 8.5), scope (7: 8.4), trustee (11: 8.1)

- [73] I accept such a conversation took place. It is significant because it was not in answer to formal questioning, but was a spontaneous remark, woman to woman. It showed clearly Mrs A's **true wishes** and **feelings** at that time. (UK)
- [74] I accept that [the claimant] has sufficient standing to sue for trespass even without seeking rectification of the register because it is the **true owner** and has a better right to possession (UK)
- [75] In such a case, which is the present case, the court will rectify the wording of the document so that it expresses the **true intention** (UK)
- [76] I believe that it is necessary to return to the **true ratio** of Hill and Caparo in order to answer the question whether liability for negligence should be imposed on the police in this case. (UK)
- [77] The plain fact is that the ministers were mistaken about the **true scope** of the term in the Framework Decision. (UK)
- [78] Their dealings with the assets were at all times adverse to the beneficiaries, and indeed to the **true trustees** holding the legal interest. (UK)

[73]の true wishes は「本当の望み」とでも訳すべき表現であり、裁判に関わった人物 Mrs A の心情を述べたものである。Wishes と並列している feelings は BNC でも true とかなりの強度で共起することから見て、[73] は人の心情をつづった一般英語に近い文体であることが理解できる。[75] の true intention とはその書類を書いた人の「真意」のことであり、それが伝わるように文言を変えることを裁判所が認めるという話である。ここでの true は correct あるいは accurate の意味で使われている。[74]の true owner、[78]の true trustee はどちらも legitimate、rightful という意味である。[76]の true ratio とは、「法的に見て正しい判決理由」という専門用語である。Ratio とは、ラテン語の ratio decidendi (=the reason for deciding) が省略された表現で、『英米法辞典』(1991)によれば、「判決理由□先例拘束性の原理と関連して、先例 (precedent) たる判決のなかで、判例法として規範的効力を持つ部分」とある。[77]の true scope も correct あるいは accurate という意味での使用である。



#### 4.3.4 True を修飾する副詞

表5、表6、表7によれば、各コーパスにおいて true は修飾するが、それ以外の correct や right は修飾しない副詞は以下の通りである。

BNC : especially (100: 8.9) particularly (177: 8.6)

US : especially (17: 10.5) particularly (15: 9.9) literally (4: 9.2) certainly (8: 9.1)  
undoubtedly (3: 8.6) as (66: 6.6)

UK : especially (7: 9.7) perfectly (8: 9.5)、particularly (11: 9) unquestionably (3: 8.9)  
equally (9: 8.8)

True と共起する副詞の特徴は、Biber, *et al.* (1999: 552–563) が制限的副詞 (restrictive) として分類している particularly と especially が、ジャンルに関係なく多用される点である。この理由は、true の意味には「当てはまる、該当する」という意味があり、当てはまる範囲を限定して、あるいは強調して記述することが多いためである。その証拠に、BNC では particularly true (177) の直後には、範囲を限定するために使用される of (79)、for (27)、in (23)、if (13)、when (10)、with (5)、during (4) などが、especially true (100) の直後には、of (41)、in (20)、for (11)、if (8)、when (7)、where (3) などが続いている。US や UK においても同様の傾向がみられる。

[79] in the case of some of the, particularly recently made newly independent states, there is a whole idea of a revolutionary fervour. This is perhaps, particularly true of some of the anthems for the, erm, the African States. (BNC)

[80] Until the seventeenth century many, even most, European frontiers were very vague, zones in which the claims and jurisdictions of different rulers and their subjects overlapped and intersected in a complex and confusing way. This was especially true in eastern Europe (BNC)

残りの perfectly は増幅詞 (amplifier) であり、undoubtedly と unquestionably は態度表明の副詞 (stance adverb) であり、equally は増幅詞 (amplifier) である。これらの副詞は、Biber, *et al.* (1999) による分類は別として、どれも true の意味を強める強意の副詞である点では共通している。

## 5. Correct, right, true の違いは何か

### 5.1 コンテキストから生じる意味の違い

この3つの形容詞に共通していることは、(A)眼前にある現実の事物なり状況と、(B)人々や社

会が想定している正しい、是認される、理想とされる事物なり状況の存在である。(A)が(B)と合致すれば、それは correct、right、true と判断されるのであるが、形容詞によって「正」あるいは「是」と判断する基準に違いがあるように思われる。

Correct は厳密な意味で「正しい、正確である」ことを意味し、exact、accurate、precise の意味が強い。

- [81] And er the sun can be as much as nearly twenty minutes slow or fast. So you can adjust for the the differences there. The sun is only at th the **correct time** four times in one year. (BNC)
- [82] I mean perhaps Saturday morning isn't the **right time** to phone but it was (BNC)
- [83] For example, if the process selects the **correct word** one in four times this does not necessarily imply 25% accuracy - it depends on the number of candidates from which each choice is made. (BNC)
- [84] I'm not sure whether deformity is quite the **right word**, mm, mm but it is close enough of the foot (BNC)

[81]は太陽の運行速度についての言及であるが、「年に4回だけ正確な時間で運行する」という意味であるが、ここでの「正確な」とは天文学上の科学的な正確さを指すものであり、このような場合に right は不適当である。同じように、[83]はシステムが正しい語を選ぶ確率を論じている文章であるが、このような数学的確率などにおける客観的で理論的な「正しい」は correct がふさわしい。Correct が grammatically や politically など特定の分野を表す副詞によって修飾されやすいのも、一般的な正しさを言うのではなく、分野を限定し、その分野だけに当てはまる厳密な意味での正確さを表明する傾向が強いからであろう。

一方、[82]と[84]は同じ time と word を right で修飾している事例であるが、[82]の right time は土曜日の朝に電話をすることが正しいのかという意味であるが、ここでの「正しい」の判断基準は社会通念上適切かどうかの判断であり科学的な判断ではない。[84]の「deformity (変形、奇形)が正しい語かどうか」は、この語が話題となっている部位の形状を表現するのに「適切な語」であるかどうかという意味であり、[82]も[84]も appropriate、suitable、proper などの意味に近い。Right の判断基準は、どちらかという一般的なであり、社会通念や伝統・慣習に強く影響され、道徳的、倫理的、宗教上「是」とされるような判断が多い。Right を修飾する副詞に morally 「道徳的に」という副詞があるのもそのような理由からであろう。また、right は一般英語において correct や true と比べて使用頻度が高く、一般の生活で馴染みのある語であるが、そのためか [85] や [86] のような語呂合わせ的な表現で多用される。この特徴は correct や true には見られないものである。この right の特徴は OED も指摘し、その用例も記載されている程である。

[85] Well yes but also say the **right words** at the **right time** yeah? yep. (BNC)

[86] You were just in the **right place** at the **right time**. (BNC)

Correct や right に比べ、true が「是」とする判断基準は、対象となる事柄の純粹さであったり、そのものが本来持つべきであろうと多くの人々が思う理想的な姿であったりするものである。その一方で、多くの人々がその事柄に抱いている幻想と現実との違いを指摘するような使われ方も多い。そこには単純に合っている・間違っているといった正誤の判断や、適切・不適切といった社会通念上や一般的な判断とは違い、物の本質を突き詰めていった末の「本当の、真実の、偽りのない、理想とする」という意味合いが true には強くあるからであると思われる。その典型的な例が、true story や true fact であり、情緒的な例としての true feelings であり true happiness であり true love なのであろう。この true が司法英語で使われると、法律が最終的な判断基準となり、「法律に則った、法的に正しい」という意味での使用が多数となるものと考えられる。

## 5.2 Correct、right、true を修飾する副詞

どのような副詞によって修飾されるのかによって、被修飾語の本来の意味がよりよく理解できることがある。形容詞 correct は、他の2つの形容詞と違って、分野・領域を表す副詞と非常によく共起することは見てきたとおりである。このことは correct という形容詞の持つ厳密性、正確性、客観性を示すものであるが、同時にこの形容詞が判断する範囲が限定的であることも示している。BNCにおいて、objectively が correct と6回、true と8回共起しているが、right との共起はない。これは correct と true という形容詞の判断方法が客観的であり、right の判断の仕方が主観的であることを暗示しているように思われる。

反対に、Biber, *et al.* が程度の副詞 (degree adverbs) の中の増幅詞 (amplifiers) に分類している absolutely は3つの形容詞のどれとも共起するが、最も強く共起する形容詞は right であり、最も共起しない形容詞は correct である。形容詞の absolute 自体が絶対形容詞 (absolute adjectives) であり、その派生形である absolutely も増幅詞としてはかなり強い意味の副詞であるが、そのような副詞と最も数多く共起する right はその判断もまた絶対的であることを示しているのであろう。

同じ態度表明の副詞 (stance adverbs) の中の認識の副詞 (epistemic adverbs) に属する certainly や surely と、correct、right、true の共起の仕方も興味深い。Certainly は BNC において correct と7回、right と17回、true と175回共起している。US においては true と8回共起し、UK においては correct と3回、true と12回共起している。一方、surely は BNC において right と21回共起している。OALD (2020) は、certainly と surely の違いを以下のように説明している。

**Certainly** usually means ‘without doubt’ or ‘definitely’ and is used to show that you strongly believe something or to emphasize that something is really true:

Compare: *The meal was certainly too expensive* (=there is no doubt about it) and *the meal was surely too expensive?* (=that it my opinion. Don't you agree?).

『ウィズダム英和辞典』(2020)は、両語の違いを以下のようにコメントしている。

**surely** と **certainly** ともにある事柄に対する確信について述べる語であるが、その根拠について、surely は話し手の主観に基づいているのに対し、certainly はある事実に基づいていることを表す

上記の説明やコメントを参考にすれば、[87]は書き手の主観に基づいて自分の主張を述べたものである。ここでの surely は後の right を強め、「この点は、彼の言っていることは確かに正しいと思うが」といったような訳になるであろう。

[87] Here he is surely **right**; only the educated and affluent people in Western societies are attracted by the idea of returning to primitive conditions. (BNC)

[88] It is certainly **true** that the deliberate act of B may break the chain of causation between something done by A and that deliberate act. That was so in Kennedy (No 2). (UK)

[89] It is certainly **true** that corporation tax and income tax are essentially taxes on profits, and that they are not taxes on individual transactions. But this is not a material distinction. (UK)

[88]の例は certainly が true を強めている例であり、[87]の surely と基本的な役割は同じであるが、that 以下が書き手の裁判官が専門的見地から確信をもって主張している事柄である。主張の内容を次の文の that で受け、ケネディーの判決でも自分の主張と同じであったと、自分の意見の正しさを確認している。[89]は最初の文で税制に関して一般に認められている原理原則を that 以下で言及し、それを一旦は認め、形の上では譲歩するものの、2番目の文で「しかしながら、この違いは重要な違いではないのである」と否定している。この2番目の文意こそが書き手の本当の主張である。『ウィズダム英和辞典』(2020: 25)では、このような文意の流れの中でよく使われる表現として、certainly、indeed、of course、surely、true、it is true thatなどを挙げている。同じ態度表明の副詞(stance adverbs)に属する認識の副詞(epistemic adverbs)でありながら、surely は一般英語のBNCで使用されているだけで、司法英語での使用はない。Surely が話し手の主観的な判断に基づいているのに対して、certainly は客観的な判断に基づいた発言の時に使用されるが、それに加えて譲歩を表す構文にも使用できる。これらの理由が司法英語での使用頻度が高い理由であろうと考えられる。

### 5.3 今後の司法英語教育

英語を母語としない日本人が一般英語あるいは司法英語のような特別なジャンルにおける類義語を効果的に学び、使いこなせるようになるにはどうすればよいのだろうか。それを考えるうえでヒントとなるのが、John Rupert Firth (1957: 11) の以下の有名な言葉である。

You shall know a word by the company it keeps

これは Firth が言葉の意味はその語の前後関係に強く影響されるのだということを述べたものである。問題となっている類義語が、他のどのような語と共起するのか、あるいはしないのか、そのコロケーションを知ることは、その語の本質的な意味を知る上では極めて有効な手段である。日本語においても、「冷たい水」「寒い朝」とは言っても、「冷たい朝」「寒い水」とは言わない。英語に訳せばどちらも cold であるが、日本語では「冷たい」は物体の温度の低さを表現するとき使用し、「寒い」は気候などにおける気温の低さを言うときに使用するからである。このように、なぜ共起するのか、なぜしないのかを議論するためには、その入り口の段階の資料として、本論で提示したようなコーパス言語学的手法に基づく分析結果が有用である。自然言語の場合には複数の種類の語が共起することが一般的であるが、それぞれの語が共起する語、その数、その強さなどが実際の事例とともに示されると、その語のコロケーションを効率よく理解し、より自然な形で使用することが可能となる。

コロケーションを議論する場合、その語の語源的な情報が役に立つことが多い。問題の語が、どのような事象を言語化した語なのか、その後どのような意味的変遷をたどって今日に至っているのかを知ることは、その語の本質的な意味内容を知ることであり、その語に対する理解が更に深まるからであろう。

本研究のような現実の言語使用を直視した言語の量的、質的研究を積み重ね、英語非母語話者の日本人にとって有益な司法英語の言語情報を提供できる辞書を完成させたいと願っている。

#### 注

- 1) Sketch Engine によると、採用されている logDice は以下の数式で産出されていると、Statistics used in the Sketch Engine, Lexical Computing Ltd., July 8, 2015 に記述されている。

**logDice general word sketch score (apples in all cases except those listed below)**

$$14 + \log_2 \text{Dice} \left( \frac{\|w_1, R, w_2\|}{\|w_1, R, *\|}, \frac{\|w_1, R, w_2\|}{\|*, R, w_2\|} \right) = 14 + \log_2 \frac{2 \cdot \|w_1, R, w_2\|}{\|w_1, R, *\| + \|*, R, w_2\|}$$

## 参考文献

- 荒井一雄、他(1992)『現代英文法辞典』三省堂
- 堀正広、他(2009)『コロケーションの通時的研究—英語・日本語研究の新たな試み』ひつじ書房
- 井上永幸、他(2020)『ウィズダム英和辞典』三省堂
- 新村出(2015)『広辞苑』岩波書店
- 瀬戸賢一、他(2007)『英語多義ネットワーク辞典』小学館
- 竹林滋、他(2002)『研究社新英和大辞典』研究社
- 田中英夫、他(1991)『英米法辞典』東京大学出版会
- 寺澤芳雄(編)(1997)『英語語源辞典』研究社
- Biber, D. et al. (1999). *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Essex: Pearson Education Limited.
- Firth, J. R. (1957). *Papers in Linguistics 1934–1951*. London: Oxford University Press.
- Hornby, A. S. et al. (2020) *Oxford Advanced Learner's Dictionary*. Oxford: Oxford University Press.
- Huddleston and Pullum., eds. (2002). *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- McIntosh, C. et al. (2009) Oxford: *Oxford Collocations Dictionary for student of English*. Oxford: Oxford University Press.
- Quirk, et al. (1985). *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Essex: Longman Group Limited.
- Simpson, J. A. et al. (1989) *The Oxford English Dictionary*. Oxford: Oxford University Press.
- Waite, M. et al. (2009). *Oxford Thesaurus of English*. (3<sup>rd</sup> ed.) Oxford University Press.